



第20回
「こどもからの人権メッセージ発表会」in 奥多摩

12月9日に奥多摩文化会館にて開催されました。
西多摩地区8市町村から代表の小学生・中学生（ゲスト参加）たちが「人権の大切さ・素晴らしさ」をテーマに、日常生活の中での気付き・体験を発表しました。この発表会は、人権意識の向上を中心とした子供たちの心の成長を目的とし、それとともに大人たちが子供たちをより深く理解する機会とするために実施しており、今回で20回目を迎えました。
奥多摩町からは、(写真左から)古里小学校6年生ラレーセロイア円蔵さん、氷川小学校6年生渡邊大地さん、奥多摩中学校3年生田中柚華さんが代表として発表しましたので、その内容をご紹介します。



「その自転車、誰のもの。」とよく尋ねられたそうです。父が「何故？」と聞き返すと、「あなたは外国人だから。」と言われたことが多かったそうです。僕はとても驚きました。「外国人だから」という理由だけで差別をするなど考えられなかったからです。
しかし、僕も差別をしてしまったことがあります。「中国からコロナウイルスが流出した」と聞いたことがあり、僕は中国人はコロナウイルスをもって危ないと思います。中国人を避けてしまっていました。明

奥多摩の教育

第235号
発行
奥多摩町教育委員会

町公式ホームページ

令和6年2月1日現在
児童数 141名
生徒数 65名
教職員数 44名



多様化社会を目指して

古里小学校6年
ラレーセロイア円蔵

らかに差別です。そして今、差別をしてしまった自分に腹がたっています。僕が差別をなくすために行わなければいけないと考えることは2つあります。

1つめは相手のことを知ること、知ろうとすることです。初対面の人は自分のイメージとは違いかも知れません。人種が違うならなおさらです。

2つめは相手の立場になって考え、思いやりを持って接することです。自分が差別を受けたらどうかを考え、相手の心に寄りそうことが大切だと思います。自分も他国へ行けば外国人です。差別は受けたくありません。一人一人が多様性社会を目指し、努力し、世界の人々が笑って幸せに暮らせる世界をつくってきたいです。

もう後悔はしたくない

氷川小学校6年 渡邊 大地

ぼくが、2年生のころ、体育倉庫のうらで友達がいじめられているのを見たことがあります。一対一ではあったけれど、一方

的に言葉で責められているように感じた。ぼくはその時、助けようかと思ったけれど、助けられませんでした。それは、自分の中に「関わったら自分もいじめられる。」という思いがわいてきたからです。そしてぼくはそのまま見なかったことにして、家に帰ってしまいました。歩きながら、「大人に知らせればよかった。」とか、「大丈夫かな。」と考

えました。けれど大人に言ったら、「なんでチクったんだよ。」と言われてたり、いじめていた子を大人が怒ってそれで終わりになってしまったりして、次に自分がいじめられてしまうのではないか、と思いました。それで結局、だれにも知らせることはできませんでした。

次の日、教室で昨日見かけた友達に、「どうして助けてくれなかったの?」と聞かれ、「ごめん。」と一言あやまるのが精一杯でした。その日から「おはよう。」などと話しかけても、返してくれなくなり、気まずい雰囲気が続く、そのまま話さなくなってしまうました。3年生になるとき、その子と

は気まずい関係のまま、ぼくは奥多摩に転校することになりました。ぼくは、その子のごまがずつと気になっていたけれど、そのままお別れすることになってしまいました。今、それをとっても後悔しています。

友達と気まずくなってしまったことも、その後、そのことがずっと気になったまままでいることも、すごく嫌な気持ちです。二度とそのような思いをしたくありません。

ぼくは、次にそのような場面にあったときに後悔をしないよう、勇気を出して声をかけられる人になりたいです。

.....
全国中学生人権作文コンテスト
ト東京大会にて作文委員会賞を受賞した、奥多摩中学校3年生の田中柚華さんの作文をご紹介します。

辛かったあの頃の自分と今の自分

奥多摩中学校3年 田中柚華

奥多摩中学校3年 田中柚華
皆さん、コロナが始まった年

を忘れてはいませんよね。国内で一番最初に感染が確認されたのは、2020年1月16日です。初めの頃はみんな感染しないようにと、手洗いうがい、そして何よりマスクをして生活していたと思います。「絶対に感染したくない」、「少しでも体調が悪い人には、近づきたくない」などのいろいろな思いがあったと思います。実際、私もそう思っていた時がありました。流行ってしまったことは仕方がないことなので、どうしようもないですが、私は学校でいろいろなことを言われたり、裏で話している内容が耳に入ってきたりしました。ある日私が少し咳をしていただけで、「コロナじゃん。」「コロナだ。」と笑われて言われま

した。別の日には、裏で「○○休んでるじゃん、コロナかな。」という声も耳に入りました。私は無視し続けましたが、それでも言ってくる子がいて困ったし、裏で言われている子も可哀想だと感じました。

コロナがだんだん治まってい

い友達と会えないのも辛かったし、何より治ったあとの学校が一番大変な思いをしました。なぜなら、「やっぱりコロナだったんだ。」「正月に外に出られないのは可哀想。」と言われたからです。そのあとも咳が続いたため、「まだ咳してるのかよ。」と何回も言われたことを今でもしっかりと覚えていきます。

当時私にそのような言葉を放った子たちはコロナに感染しなくなかったのだと思いますが、そのような言葉を聞いたら、差別と思う方も多くいるはずですが、私はこのようなことで済みましたが、世界にはもっとコロナ関係で困っている人が、沢山いると思います。他にも親戚の話ですが、差別だと思いが一つありました。それは、熱が出てしまつて学校を早退し、1週間近く休んだあとに学校に行ったら「コロナだ。」と言われ、インフルエンザだったことを伝えたら、「じゃあ大丈夫だ。」と言われたことです。このようにインフルエンザなのかコロナなのかでも、差別になっているのが今の現状です。ところで、イ

ンフルエンザがいつから国内で確認されたかわかりますか。覚えていない人の方が多いかもしれません。流行り出したのは、1980年の8月頃だそうです。100年以上続いているのに、やつと令和3年に改正法が出されました。もしかしたら、コロナも100年以上かけて差別が少なくなつていくのかもしれない。

私は、このコロナの差別がすぐになくなるのが一番良いと思いますが、そう簡単にはなくならないのはわかっています。でも個人一人一人がこの差別のことを考え、やめようと思つてくれれば、だんだんなくなっていくはず。私も自分が言われて傷ついていた時の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思えるようになっていき、相手の気持ちを考へて行動できるような人になりたいと思つていきます。皆さんもぜひ、今までの行動を振り返つて、「あの行動は本当に良かったのか」、「あれはダメだったかな」などと思えるようにして欲しいと思つていきます。そして何よりも困っている多くの人たちが差別から解放されるようにと願っています。

東京都小学生科学展



氷川小学校5年
うえの あかり
上野 明さん

東京都小学生科学展に、氷川小学校5年生、上野明さんが「夏のご飯を守れ！〜ご飯を腐りにくくするには〜」の研究を出展し、**優秀賞**を受賞しました。

明さんは、お兄さんのお弁当のご飯が夏場すぐに痛むということを聞き、どうすれば長持ちさせられるか考えたいと思つたことをきっかけに、本研究に取り組みました。

実験は炊いたご飯40gを密閉容器に入れ、そこに梅干しや塩、ふりかけ、お酢、抗菌シートといった比較するための食材などをのせて、1時間ごとに見た目とおいを確認して菌の繁殖状況を調べ、記録しました。

明さんは、以前「梅干しをご飯にのせると長持ちする」とい

うことを聞いたことがあったため、一番菌の発生を防ぐ効果が高いと予想しました。また、抗菌シートも、その名前から効果が高いと考えました。しかし、実験を行つてみると梅干しや抗菌シートも、痛むまでの時間が長いだけで、数十時間後にはカビが生え、変色してしまいました。比較した中では、お酢が一番ご飯を腐りにくくすることが、実験の結果分かりました。

日常生活の中から疑問に感じることを見付け、理科的視点で条件を変えるところと変えないところを設け、異なる実験結果から、ご飯に与える影響の違いを見付け出すことに成功しました。

明さんの研究結果は、1月に日本科学未来館とアキシマエンスに展示されたのち、現在は氷川小学校1階廊下に展示されています。また、東京都教育委員会会のホームページ(左のQRコードからアクセスできます)でも閲覧することができます。ぜひ一度ご覧ください。



新規事業

『放課後居場所づくり事業』が始まります

『放課後居場所づくり事業』は、国が「新・放課後子ども総合プラン」において推進する学童クラブ事業と放課後子ども教室との連携について、町に現在ある学童保育会と、新たにスタートする放課後子ども教室を民間に委託することで一体的に実施し、児童の放課後居場所づくりの充実を図ることを目的とする新たな事業です。

町では、この3月から、古里小学校・氷川小学校の空き教室や校庭等を利用し実施します。なお、参加費は無料です。

『放課後子ども教室』とは

子供たちの主体的な参加と過ごし方、また地域の皆さんのご協力のもと、学校の空き教室や校庭等を放課後に利用し安全に安心して子供たちが過ごせる、例えるなら「大人による見守りがある公園」のような場所です。なお、放課後英語教室及びチャレンジおくとまは、継続して実施します。

【対象児童】古里小学校・氷川小学校に在籍する児童、または学区内に居住する町立以外の小学校に在籍する児童

【活動場所】

○古里小学校・図書室またはプール2階会議室（長期休業日）
校庭・体育館

○氷川小学校・家庭科室または多目的室・校庭・体育館

【開催日時】

○学校登校日・平日放課後から17時まで

○長期休業日・平日13時から17時まで

【活動内容】子供たちが主体的に遊び・学ぶ場所や環境を提供し、工作や昔遊びなどのプログラムのほか、サッカー、ドッジボールなどを実施します。

【登録】学童保育会とは異なり全児童が対象となるため古里小学校・氷川小学校に通う全ての児童の登録をお願いしています。

【問合せ先】

(株)明日葉(委託業者)

☎03(3452)3350

福祉保健課子育て推進係

(子ども家庭支援センター)

☎(85)2611

事業詳細についてはコチラ↓



❖教育相談室より❖

発達障害について思うこと スクールソーシャルワーカー

楠見 潔

「発達障害」という言葉は、とても誤解を招きやすい言葉だと思います。端的に言えば「特性」とか「性格に近いもの」といえますが、「障害」という言葉がもつ否定的なイメージからか、とてもネガティブに捉えられてしまうことが多いと思います。

今回は発達障害について、日頃、考えていることをいくつか書きたいと思います。

発達障害は「脳の機能障害である」と説明されることが多いのですが、大胆にもっとわかりやすい言葉で言い換えると、「感じ方の違いである」と表現できると思います。

よくある例をいくつか挙げる、と、「こだわりが強い」「空気(表情)が読めない」「片づけが苦手」などといった特性があります。特性の現れ方は人それぞれで、一つだけ強い人もいれば、複数の特性を同時に持っている人もいて様々

です。そして、これらの特性は「そう感じてしまう、そうなってしまった」に自分でコントロールすることがとても難しいのです。この点は、発達障害を理解する上でとても大切なことだと思っています。

さて、これらの特性。私は程度の差こそあれ、発達障害の方だけにあるわけではなく、私たち自身みんながもっているものだと思います。私も「自分にも同じような特性があるな」とよく思います。この感覚を広げることで、発達障害の方の気持ちや感じ方を想像することができずし、否定的に考えるのではなく、おらかに受け入れることができます。そして、「発達障害をよく理解すること」は、人間関係を良くし、みんなが仲良く生活できることにつながることも感じていきます。

❖教育相談室では、ご家庭やお子様についてのご相談と一緒に整理し考えるお手伝いをいたします。お気軽にご相談ください。

☎・FAX (83) 2340

【メール】

okusoudan@town.okutama.tokyo.jp

「二十歳を祝う会」開催

1月8日に文化会館にて開催されました。今年度20歳になられた26名の方が出席されました。和やかな雰囲気の中、式典が執り行われ、恩師の方々からの懐かしい思い出話や、来賓の方々から出席者へ温かいエールをいただきました。き心に残る式典となりました。



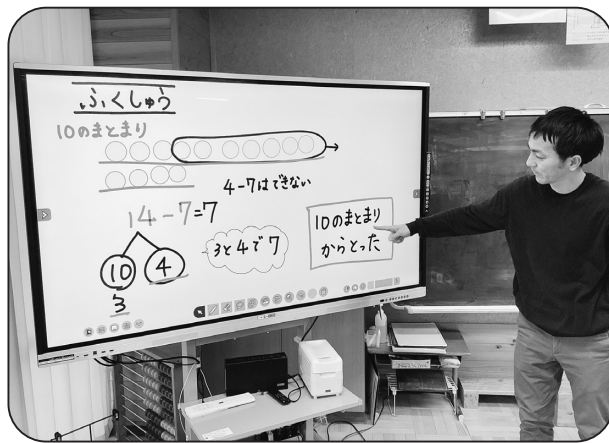
放課後子ども教室「チャレンジおくとま」

教育委員会では、放課後子ども教室運営委員会と文化団体連盟にご協力をいただき、伝統文化の学習及び地域の方との交流を深めるため、放課後子ども教室「チャレンジおくとま」を実施しています。今年度は絵手紙、木工、将棋など様々な教室を実施し、遊び、ものづくり等を楽しんでいきます。



電子黒板を導入しました

令和5年度において各小学校の1～6学年の教室及び音楽室、算数教室に電子黒板を導入しました。教育のICT化が進む中、町では児童の学習環境の向上を目的として、学校現場での更なる活用促進を図っています。



【学校式典のご案内】

卒業式

古里小学校 3月25日(月) 午前9時30分
 氷川小学校 3月25日(月) 午前9時45分
 奥多摩中学校 3月19日(火) 午前9時30分

入学式

古里小学校 4月8日(月) 午前10時30分
 氷川小学校 4月8日(月) 午前10時00分
 奥多摩中学校 4月9日(火) 午前9時30分



〈お詫びと訂正〉

令和5年12月5日発行「奥多摩の教育」第234号4ページの奥多摩中学校芸術鑑賞教室記事において、一行目がタイトルに隠れ、記載されていませんでした。
 (誤) ラの演奏を鑑賞しました。
 (正) 東京スカイライン・オーケストラの演奏を鑑賞しました。
 また、5ページの給食費改定額小学校(低学年)の金額に誤りがありました。

(誤) 4300円 (正) 4400円

お詫びして訂正いたします。



古里小学校 近況報告

展覧会



11月17日・18日の2日間にわたって、展覧会を実施しました。この展覧会は平成28年度以来、実に7年ぶりの開催となり、在校生にとって初めての展覧会です。会場の体育館には、個人作品はもちろんのこと、縦割り班や学年、そして全校で製作した共同作品も展示され、まるで美術館のような空間となりました。会場に入った子供たちからは、驚きと感動の声が溢れました。

また、子供たちが保護者や来場した方々に、作品に込めた思いや製作過程の様子などを紹介する活動にも取り組みました。子供たちは自分の頑張りを聞いてもらい、とても満足した様子でした。この2日間、個性豊かな作品をたくさんのご来賓、保護者や地域の皆様にご覧いただきありがとうございました。

報告 藤田 誠司



氷川小学校 近況報告

校内研究発表会

氷川小学校では、2月14日に2年間行ってきた校内研究の発表会を実施しました。研究のテーマは「予測困難な時代を生き抜く力を身に付けた児童の育成」見方・考え方を働かせて思考する授業を通してです。近年、社会は急速な変化を遂げており、今後予測困難な状況が続くことが予想されます。このような社会を生き抜くためには、子供たちに「様々な変化に積極的に向き合う力」や「他者と協働して課題を解決する力」などを身に付けさせる必要があると考えました。

それらの力を身に付けるには、国語科や算数科といった教科ごとの「見方・考え方」を働かせることが効果的であると仮説を立て、研究を進めてきました。

研究発表当日は、多くの方々にご来校いただき、我々の研究を見ていただきました。

子供たちが、どれだけ各教科の「見方・考え方」を意識して課題解決に臨んでいるか、指導者が「見方・考え方」を働かせるための授業デザインを行っているかについて、たくさんのご意見をいただきました。

学校ホームページに研究内容をまとめたものを掲載していますので、奥多摩町の皆様にもぜひご覧いただきたいと思えます。

今後、子供たちに必要な力を身に付けられるよう、教育研究に取り組んでまいります。

報告 野尻 迅人

奥多摩中学校 近況報告

第2学年移動教室

1月17日から19日まで、新潟県湯沢町の岩原スキー場で移動教室を実施しました。雪が少ないことが心配されましたが、数日前からの降雪でゲレンデは良好でした。

半数以上の生徒が未経験者でしたが、インストラクターの方々の丁寧な指導で、2日目からは全員がリフトに乗り、ほとんど転ぶことなく長い距離を滑ることができるようになりました。2日目の午後の講習は雨の中でしたが誰一人弱音を吐くことなく、逆に「もっと滑りたい！」という感想ばかりが聞かれました。



1日目の夜は観光協会の方から、奥多摩イノベーションに活用できる、湯沢町の活性化についての話を聞きました。2日目の夜はレクリエーションで盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。美味しいご飯もたくさんおかわりして、とてもいい経験になったと思います。今回の移動教室で培った、「自分たちで決めたことを最後までやり切る」力を今後の学校生活に活かすとともに、どんなことでも挑戦して、達成することの喜びをこれからもたくさん味わってほしいと思えます。

報告 三輪 佳子